

夜中地蔵 名古屋市区

JR名古屋駅にほど近い住宅地。家々に囲まれた地蔵院の境内に、コンクリートの小

△57△

お地蔵さん 見つけた

願い事が夜(よく)かなう?

所を変えた。戦後の名駅周辺の開発のため、二度のお引越しをしたことになる。今の

降伸住職(五)は、先代の父親から別のこんな話を聞いた。「まだ街路灯が少なかったこ

わり」地蔵とも呼ばれるという。このほか、昔、保線工たちがどこからともなく持つてきて建てた

らのお参りが絶えない。「夜中」をもじって、「夜かなう」、つまり願い事がよくかなうというので評判を集

夜中地蔵は、名古屋駅の方角を向いて静かにたたずむ。鉄道も交通も界わいもずいぶん変わった。自動車も増え

ていたが、鉄道高架化にともなう、近くにあった地蔵院境内に移された。その地蔵院も、道路拡幅のために現在地に移転。夜中地蔵も一緒に場

場所に着いたのは一九八〇(昭和五十五)年だ。いつ建立されたのかは分からない。一説には、ある夜、こつ然と現れたからその名が付いたという。地蔵院の石田

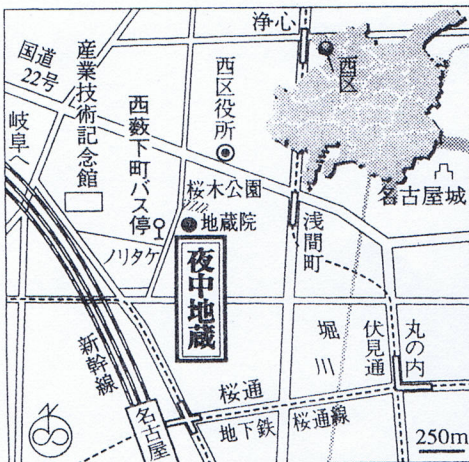
ろ、鉄道の事故で亡くなる人が多かった。その霊をなぐさめるために、人々はよく夜参りしたから、夜中地蔵と名付けられた」。お参りする人を災難から守るので身替(みか

由来はなぞを秘めているが、今も地域の人には親しまれている。毎年二回、帽子と前掛けを地元のお年寄りが着せ替えている。お年寄りやすぐ北側にある公園に来る主婦

×M 地蔵院は、明治時代に創建された曹洞宗の寺院。夜中地蔵は高さ約八〇センチの石造立像。収められた地蔵堂には、軽く持ち上げれば願いがかなうという重軽地蔵もある。市バス西敷下町停留所から徒歩三分。



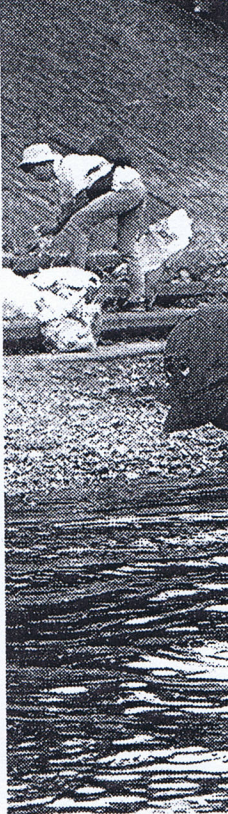
イラスト MA・CO



「来られる方は、それぞれの願いを持って見えるんですよ」。石田住職はお年寄りらと季節のあいさつをした後、やさしそうにお地蔵さんに目をやった。(吉田 幸雄)

題字は興文会

松下 英風さん



山崎川をさごみを拾

同会は一環青年の参(同区豊岡通三)で活動するサークルを中心とし、清掃は四回目。近くの民間企業の社員も加わり八団体から約二十五人が参加した。

千石新聞に掲載

無料。山田昭義、証協議会、電、中區栄一、